



出雲市立荘原小学校

# 地域学校運営理事会だより

〒699-0503 出雲市斐川町神庭273

Tel 72-1531 Fax 72-7656 Mail sbs-school@izumo.ed.jp

H. 29 7月発行

## ご挨拶

荘原小学校地域学校運営理事会 理事長 原 悟司

福島勲前理事長に代り、本年度から理事長をお引き受けすることになりました。微力ではありますが、荘原小学校の教育活動がより一層充実するよう「学校の応援団」として努めていきたいと思っております。地域の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

さて、今年度も校訓「努力する子」「よく考える子」「体をきたえる子」「なかよくする子」に基づく教育活動がスタートしました。学校の教職員や保護者の皆さんだけでなく、地域が一体となって取り組まなければ、めざす子どもの姿を実現させることはできません。各々がその責任を果たし協力し合っこそ達成されるものだと考えます。子どもたちの笑顔と夢にあふれる明るく楽しい荘原小学校を創るために一層のご協力をお願いいたします。

### 今年度の理事会理事の皆様

理事長	原 悟司	教育振興会長	理事	富岡俊夫	有識者
副理事長	福島 勲	荘原コミュニティセンター長	理事(新)	岡 佳子	主任児童委員
副理事長	岩谷真次	P T A会長	理事	佐藤恭子	荘原幼稚園長
理事(新)	高橋義孝	自治協会会長代理	理事	勝部宏樹	P T A副会長
理事(新)	原 正	社会福祉協議会長	理事	須田貴子	P T A副会長
理事	須田 晃	青少年育成協議会長	理事	須田英典	荘原小学校長

## ☆☆☆☆☆☆☆☆第1回地域学校運営理事会から☆☆☆☆☆☆☆☆

6月8日(木)に本年度の第1回小学校地域学校運営理事会を開催しました。

学校から学校経営方針・学校予算の配分・学校評価・いじめ防止基本方針等についての説明があり、本年度の取組について承認しました。本年度の教育活動の取組は次のとおりです。

### 【教育活動に関すること】

◇県N I E実践指定校2年目となり、教育に新聞や図書の利用を促進し、情報を活用して主体的に表現できる授業づくりの取組をさらに推進します。

◇戦時中の荘原の様子を聞いたり、戦争史跡を巡ったりする6年生の平和学習をさらに充実させます。

◇学習指導要領の改訂に向けた準備(外国語活動と外国語)を具体的に進めます。

### 【市予算に関すること】

◇予算の組み替えは行わず、各費目に配当された予算額に従って執行します。

### 【その他】

◇開催の市戦没者追悼平和祈念式典で荘原小学校の児童代表が作文発表を行います。(8月6日開催)



【▲第1回地域学校運営理事会の様子から】

# 終戦の頃の荘原の様子

平成27年8月15日は、70回目の終戦記念日でした。今回は、昭和20年の終戦時の荘原を振り返ってみたいと思います。

昭和16年4月から学校は国民学校と改称され、学校教育も戦時体制へと組み込まれました。そして同年12月の真珠湾攻撃とともに太平洋戦争へと突き進んでいきます。



【▲戦時中、国民学校の生徒だった皆さんのお話】

昭和20年3月には、出西村新川廃地に航空基地建設が着工となり、3月27日（火）に美保航空隊の前田少佐を隊長とする部隊が進駐し基地建設にあたりました。荘原村国民学校の校舎もその宿舎となりました。6月には大社基地は完成し、九州の鹿屋基地から搭乗員部隊が、美保基地から工員隊が進駐してきたと伝えられています。そして、6月20日（水）、大社基地（出西飛行場）から爆撃機「銀河」が出撃のため九州へ向け飛び立ったとの証言も残されています。しかし戦況は刻一刻と悪化していき、7月終わりには、九州各地の基地から、米軍による空襲を避けて大社基地へ戦闘機が続々と集まって混雑したとされています。

当時の子ども達は、どのような風景を目の当たりにしたのでしょうか。

『荘原村尋常・高等小学校沿革史』によれば、戦時特別記事として「昭和20年7月6日（金）、空襲熾烈化により学校を村内13箇所に疎開す。」との記録が認められます。

そして、13の分校名の記載が続きます。

- |             |               |             |
|-------------|---------------|-------------|
| 第一分校…下畑公会堂  | 第二分校…学頭昌子氏宅   | 第三分校…学頭飯塚氏宅 |
| 第四分校…学頭宮    | 第五分校…下庄原天理教会場 | 第六分校…下庄原公会堂 |
| 第七分校…新田吉野氏宅 | 第八分校…観音寺      | 第九分校…下庄原宮   |
| 第十分校…神庭宮    | 第十一分校…羽根宮     | 第十二分校…吉成宮   |
| 第十三分校…上庄原宮  |               |             |

戦況はさらに逼迫したものになり、7月28日（土）には、大社基地をはじめ山陰各地が空襲被害を受けました。そして、8月6日は広島市への原子爆弾投下、当時荘原からも多くの人々が学徒動員等で広島の軍需工場へ出かけていらっしやいました。

この村内疎開は、終戦により前田部隊撤収とともに、8月24日（金）分校は解散となり、全児童が本校復帰となります。当時の荘原村国民学校の尋常科・高等科の児童数は、大阪市西区・西淀川区からの学童疎開児童も加えて1,040名でした。大変な数の児童が荘原地区内で生活していたこととなります。その時、児童であった方々も、すでに70歳後半から80歳前半になっていらっしやいます。

小学校では、6年生の児童が「荘原に戦争があったころの様子」について学習を進めています。

郷土史家の池橋達雄さんによる「荘原に戦争があったころの話」「斐川に今も残る戦争史跡を訪ねよう」の活動に加えて、戦時中、荘原村国民学校の生徒であった5名の皆さんから、当時の生活の様子についてお話を聞く会をもちました。さらに、大阪市西区の堀江国民学校から荘原に学童疎開された経験をおもちの瀬戸寛治さん（大阪市北区在住・85歳）から、児童に対してビデオレターをいただき、故郷を遠く離れて生活した当時の様子や思いについて学びました。

毎年8月に開催される市戦没者慰霊平和祈念式典では、市内小学生の作文発表があります。今年度は、荘原小学校の代表児童が作文発表を行います。今回の学びの成果を生かしたいと思います。